

三宿病院神経内科における臨床研究と学会誌への報告の御案内

三宿病院神経内科では三宿病院倫理委員会の承認を得て、「物忘れ外来における J-SNAQ を用いた食欲の検討」を行うこととなりました。

物忘れがある方、特に認知症の方は認知機能の低下のみならず、生活機能、身体機能、栄養状態の低下を来すことが知られています。そのため、診察では生活機能、身体機能や栄養状態を評価する必要があります。食欲はこれらの機能と密接に関連しています。先行研究では食欲の低下が体重減少につながり、体重低下が認知機能低下につながるということが知られています。食欲の有無をチェックすることは、認知症の方の状態を把握し、その後の治療にもつながるため、重要なことであります。

今回行う臨床研究は、物忘れ外来に初診で来院された方に食欲に関するいくつかの質問にお答え頂き、認知機能や生活機能、身体機能、栄養状態との関係を見るのがこの研究の目的です。

物忘れ外来を初診で来院された方には、受診前に問診票を記載して頂きます。その際に食欲に関する問診票を記載して頂きます。問診内容は合計 4 問で当てはまる選択肢を選んで頂きます。同時に通常の診療で行っている生活状況や身体機能、心理症状についての問診票を記載していただきます。問診票をもとに診察を行います。診察には基本的な神経心理検査を行います。その後、採血検査、画像検査を行います。食欲とこれらの検査結果との関係を調べます。

なお、食欲に関する問診票以外はすべて従来から行っている通常の診療の一環です。

食欲の評価によって適切な生活へのアドバイスにつながり、認知機能維持、生活機能維持につながる可能性があります。日常診療と比べて参加することで得られる特別な経済上の利益はありません。

学会誌に掲載する場合は、対象となった患者さんの臨床情報は匿名化によって管理され、プライバシーが保護されます。また、ご自分の臨床情報を研究に使わないでほしいというご希望があれば三宿病院事務部庶務課長宛までご連絡をいただけますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、診療には全く何の影響もなく、いかなる意思においても不利益を被ることはありません。

今回、我々は当院の倫理委員会の規定に基づいて、三宿病院のホームページにて公開することといたしました。尚、当件についてのお問い合わせやご相談等がございましたら、三宿病院事務部庶務課までご連絡ください。